

令和6年1月31日（水）18時30分～20時

令和5年度愛媛県DPAT運営委員会

資料1

令和6年 能登半島地震における 対応について

愛媛県健康増進課精神保健係

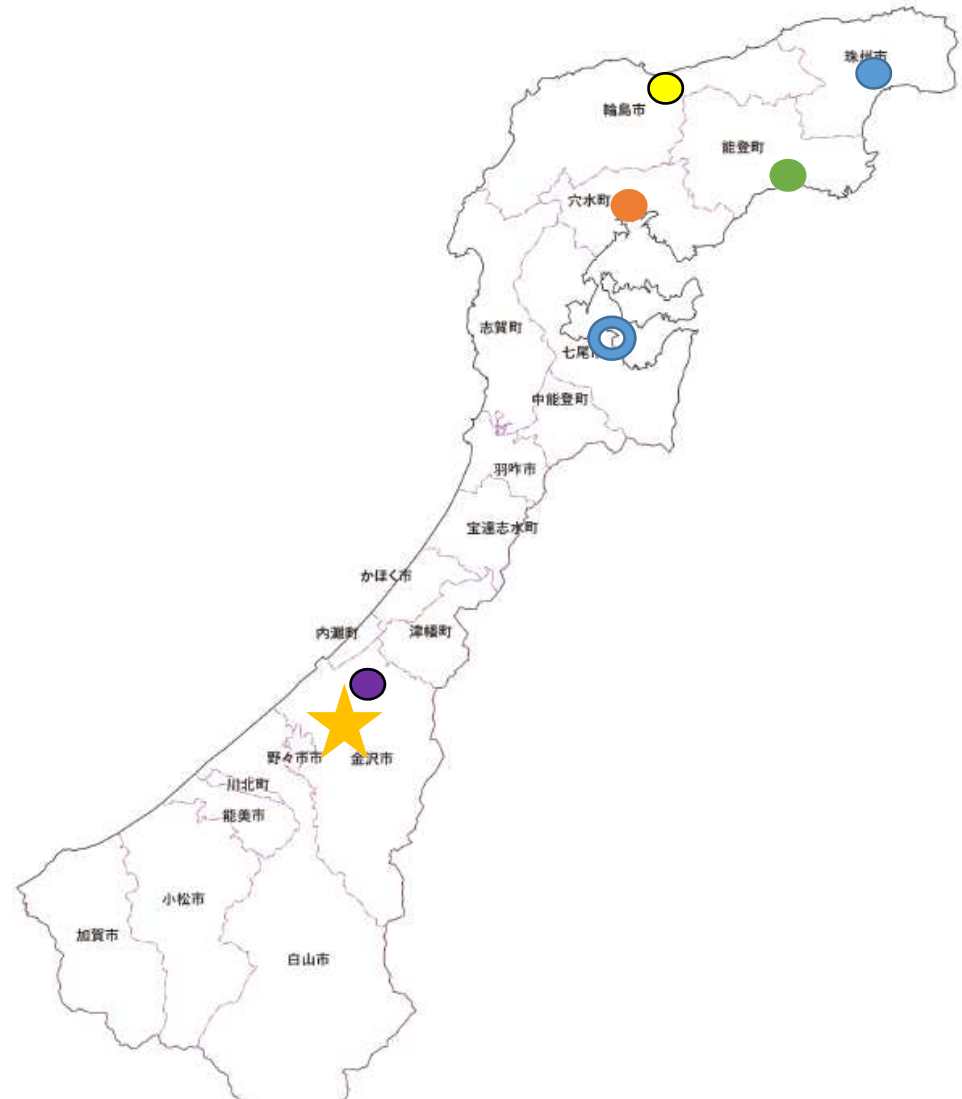


石川県の状況と愛媛県DPA Tの動き

日時	
1月1日 16時10分頃	能登半島を震源とするマグニチュード7.6・最大震度7の地震発生 大津波警報発令
1月1日	石川県災害対策本部設置
1月2日	石川県DPA T調整本部の立ち上げ
1月4日	DPA T事務局から中部ブロックに対し、DPA T先遣隊の派遣要請
1月7日	DPA T事務局から全都道府県に対し、DPA T先遣隊の派遣要請
1月7日 15時00分	愛媛県DPA T調整本部の立ち上げ、先遣隊保有機関（松山記念病院 及び愛媛大学医学部附属病院）に対しDPA T先遣隊の派遣要請
1月11日	松山記念病院の先遣隊1チームを派遣決定
1月15日	「能登半島地震・子供のこころ相談テレホン」の開設
1月17日	松山記念病院の先遣隊1チームを派遣（1月22日まで）
1月22日	こころの健康センター内に「石川こころのケアセンター」を開設。被災者・支援者の心のケアを実施。 「こころのケア専用相談ダイヤル」の開設。
1月27日	愛媛大学医学部附属病院の先遣隊1チームを派遣決定
2月2日	愛媛大学医学部附属病院の先遣隊1チームを派遣（2月6日まで）

石川県でのDPAT活動

- ★石川県DPAT調整本部
(石川県庁：金沢市)
- DPAT活動拠点本部
(能登中央保健福祉センター)
- 穴水町DPAT指揮所
(穴水町保健センター)
- 能登町DPAT指揮所
(能登町役場)
- 珠洲市DPAT指揮所
(珠洲市健康増進センター)
- 輪島市DPAT指揮所
(輪島市役所)
- 石川中央・南加賀医療圏DPAT指揮所
(心の健康センター)



令和5年度 大規模地震時医療活動訓練 DPAT訓練報告



愛媛県健康増進課精神保健係

令和5年度訓練の被害想定

訓練の概要

- 訓練の目的

南海トラフ地震の発生により、四国4県（徳島県、香川県、愛媛県、高知県、）及び大分県、宮崎県に甚大な被害が生じたことを想定し、被災地内での医療救護活動の展開及び傷病者の広域医療搬送等の訓練を実施し、関係機関相互の連携強化を図る

- 訓練日程

日時：令和5年9月30日（土）

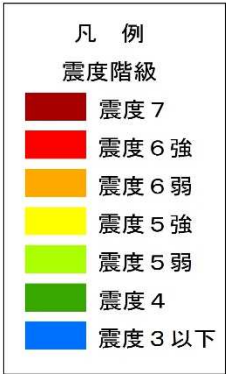
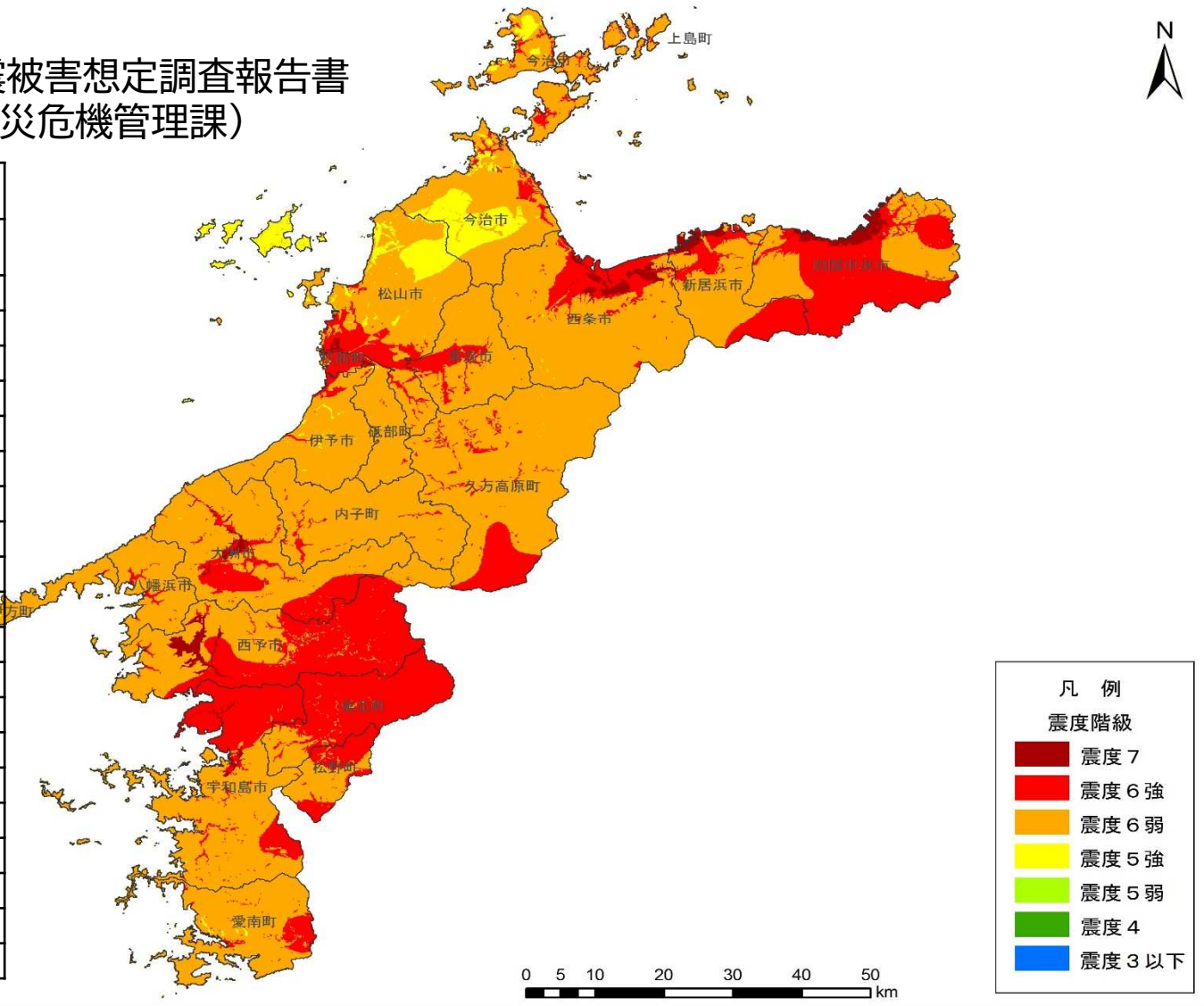
（訓練前日の9月29日午前11時に発災想定）



想定地震における市町別最大震度

H25.12 愛媛県地震被害想定調査報告書
(愛媛県県民環境部防災危機管理課)

市町名	南海トラフ巨大地震
	想定地震
松山市	7
今治市	6強
宇和島市	7
八幡浜市	7
新居浜市	7
西条市	7
大洲市	7
伊予市	7
四国中央市	7
西予市	7
東温市	6強
上島町	6強
久万高原町	6強
松前町	7
砥部町	6強
内子町	6強
伊方町	7
松野町	6強
鬼北町	7
愛南町	7



想定地震における最高津波水位予測図

H25.12 愛媛県地震被害想定調査報告書(愛媛県県民環境部防災危機管理課)

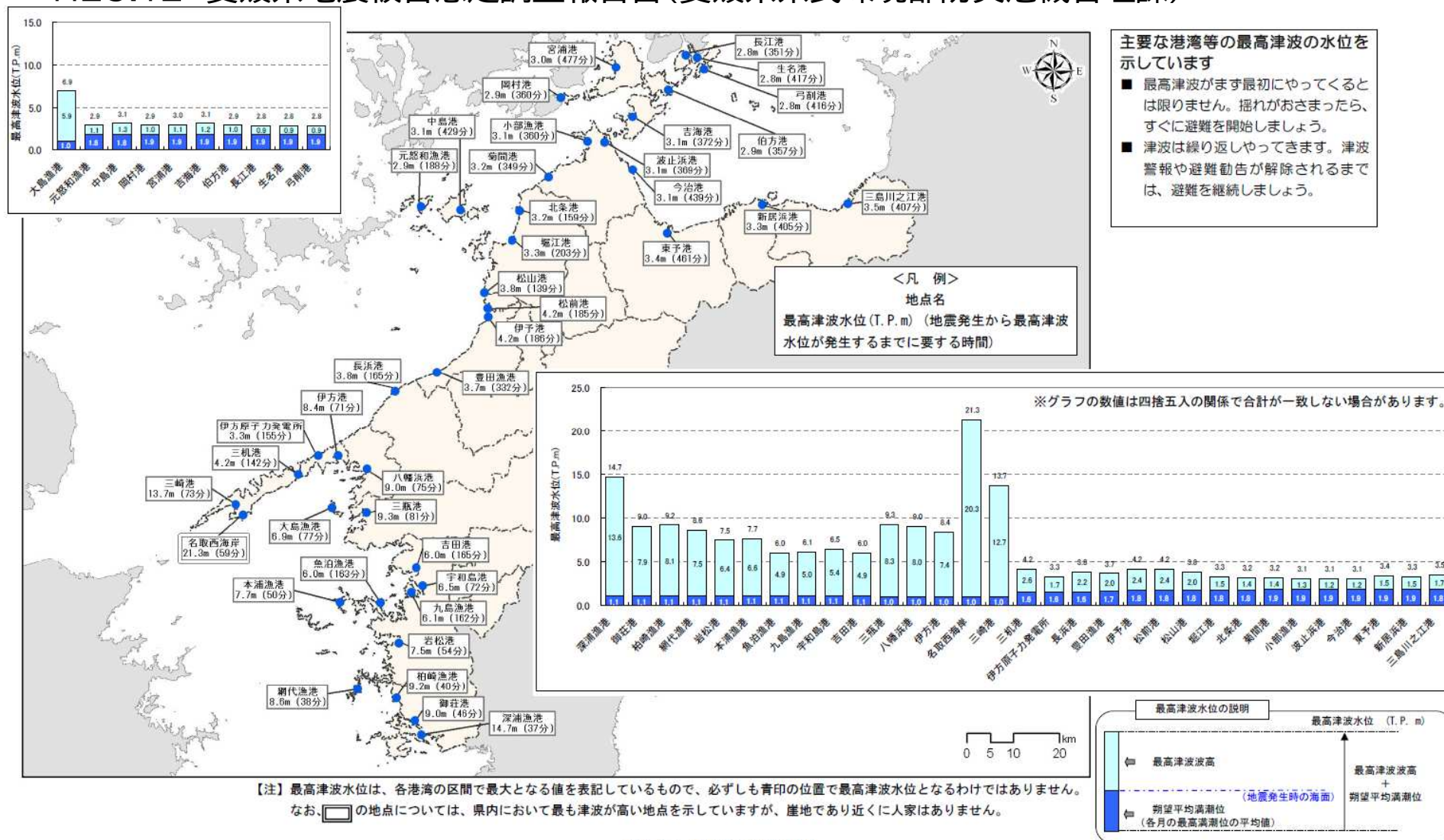
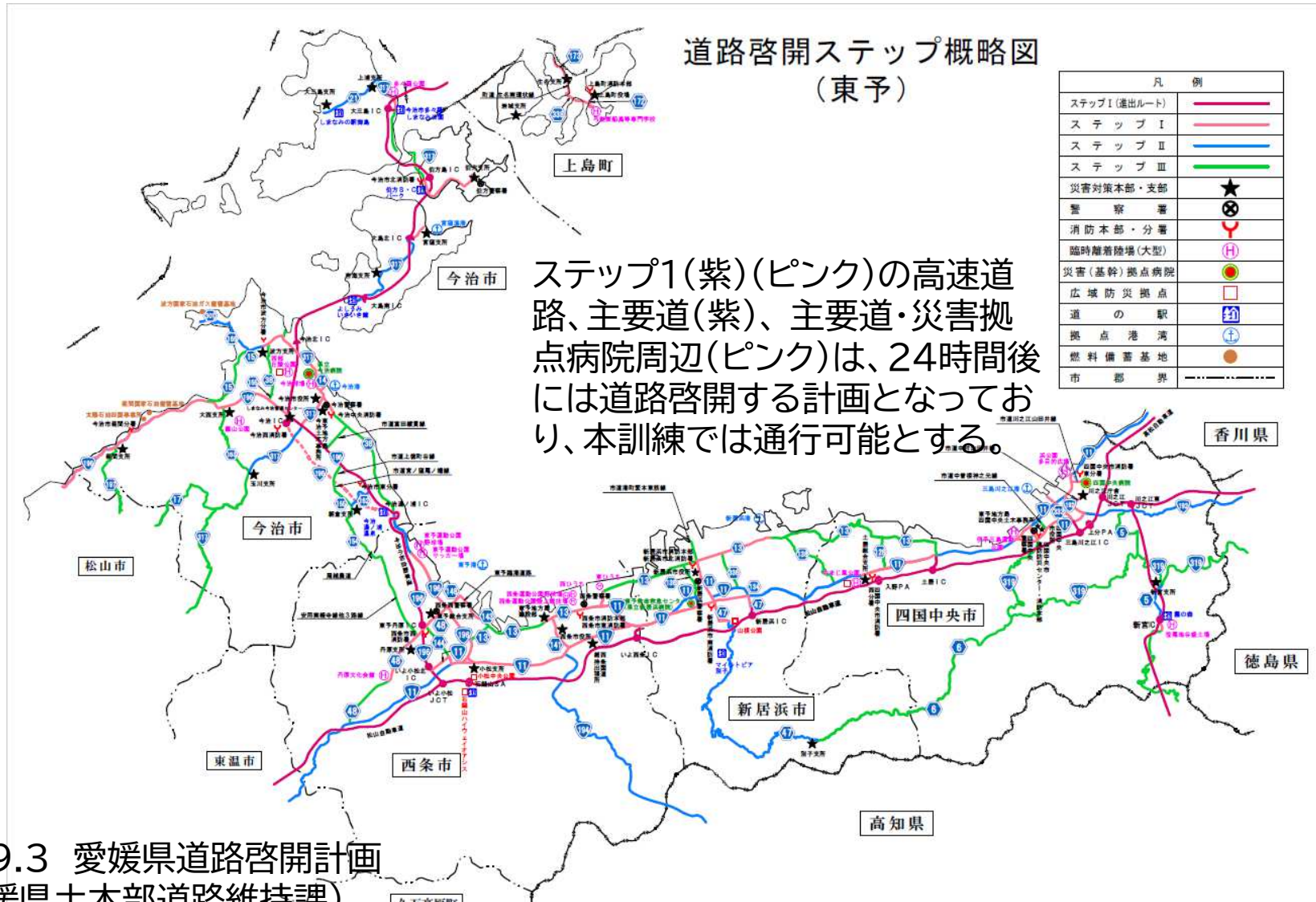


図 3-4-1 最大津波水位予測図



想定地震における県道路啓開計画(東予)



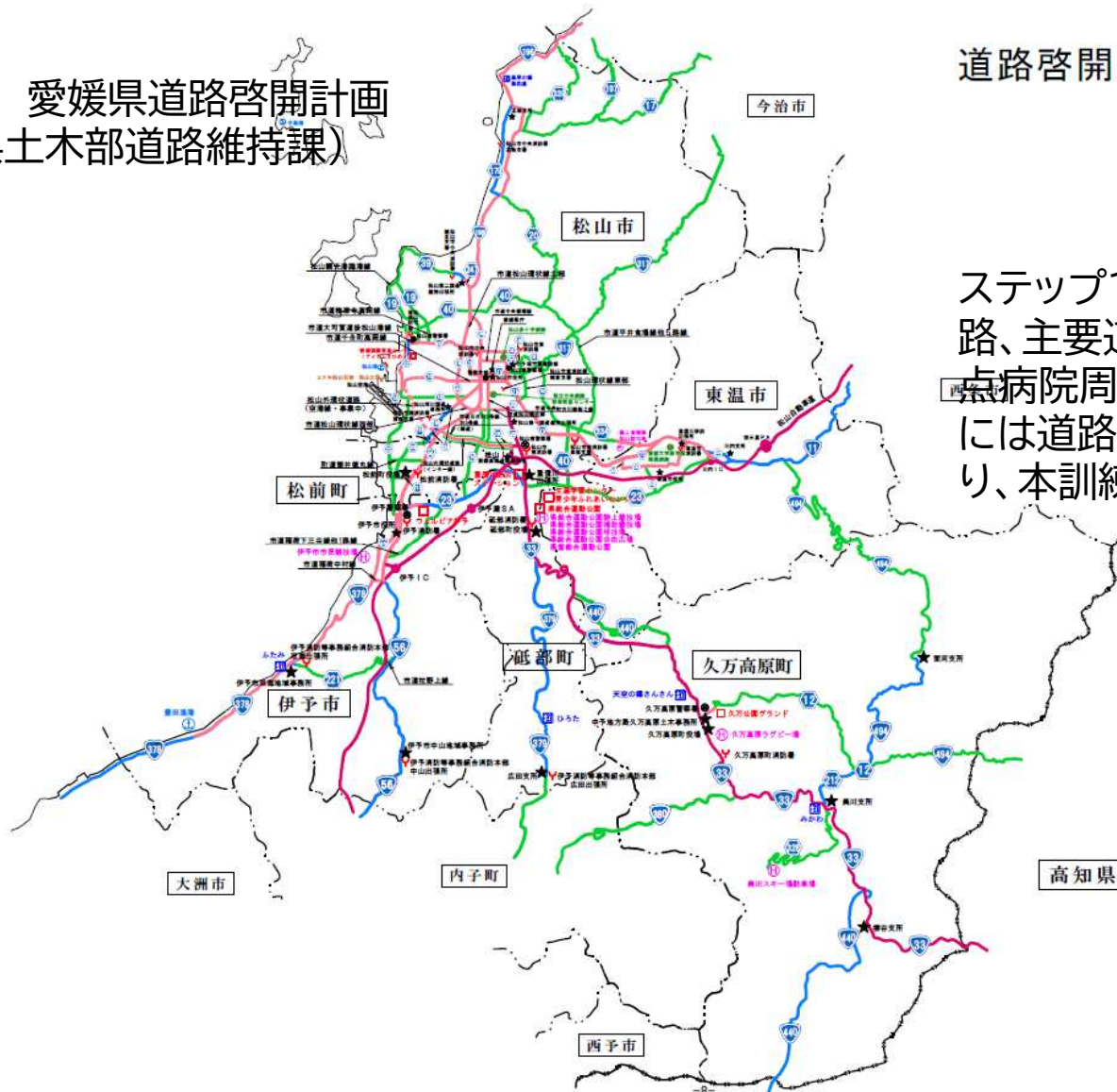
H29.3 愛媛県道路啓開計画
(愛媛県土木部道路維持課)



想定地震における県道路啓開計画(中予)

H29.3 愛媛県道路啓開計画
(愛媛県土木部道路維持課)

道路啓開ステップ概略図
(中予)



ステップ1(紫)(ピンク)の高速道路、主要道(紫)、主要道・災害拠点病院周辺(ピンク)は、24時間後には道路啓開する計画となっており、本訓練では通行可能とする。

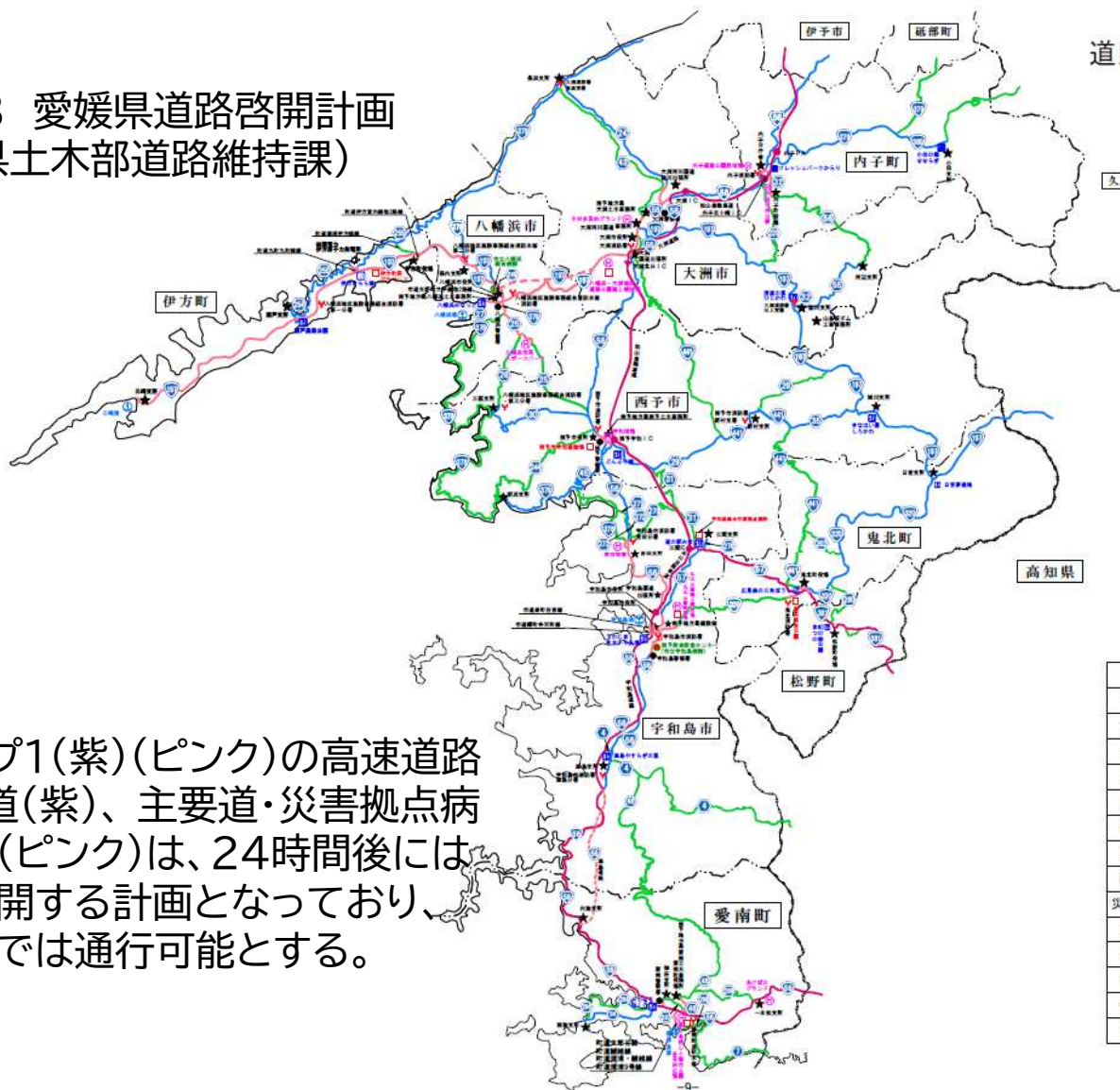
凡 例	
ステップI (遠出ルート)	
ステップ II	
ステップ III	
災害対策本部・支部	
警察署	
消防本部・分署	
臨時離着陸場(大型)	
災害(基幹)拠点病院	
広域防災拠点	
道の駅	
拠点港湾	
燃料備蓄基地	
市郡界	



想定地震における県道路啓開計画(南予)

H29.3 愛媛県道路啓開計画
(愛媛県土木部道路維持課)

道路啓開ステップ概略図
(南予)



ステップ1(紫)(ピンク)の高速道路、主要道(紫)、主要道・災害拠点病院周辺(ピンク)は、24時間後には道路啓開する計画となっており、本訓練では通行可能とする。

凡 例	
ステップ1(進出ルート)	———
ステップ I	———
ステップ II	———
ステップ III	———
災害対策本部・支部	★
警 察 署	⊗
消防本部・分署	⌋
臨時離着陸場(大型)	Ⓜ
災害(基幹)拠点病院	●
広域防災拠点	□
道 の 駅	Ⓜ
拠点港湾	Ⓜ
燃料備蓄基地	●
市 郡 界	---



愛媛県地震被害想定調査結果(概要)

医療圏域	県内建物棟数	建物被害(全壊棟数)冬18時		人口H22.10国勢調査	人の被害(死者数)冬深夜		ライフライン被害冬18時							生活支障冬18時				災害時要援護者	
		合計	合計		合計	合計	上水道	下水道	電力	通信(固定電話)	都市ガス	LPガス			避難者		物資不足量		
							断水率	支障率	停電率	不通回線率	供給停止戸数	容器転倒戸数	ガス漏洩戸数	避難者計		(1~3日後)			
		(棟)	(棟)		(棟)	(人)	(人)	(%)	(%)	(%)	(%)	(戸)	(戸)	(戸)	(1日後)	避難所	食糧		飲料水
宇摩	62,760	26,288	11,014	90,187	1,043	4,833	99.9%	96.8%	100.0%	99.9%	0	1,250	887	31,999	19,559	147,406	176,702	4,142	
新居浜・西条	164,303	68,301	30,405	233,826	5,489	10,444	99.9%	98.9%	99.9%	97.9%	0	3,025	2,139	109,201	69,257	517,321	754,522	16,129	
今治	136,530	10,759	29,090	174,180	788	5,241	95.2%	50.8%	76.0%	75.2%	13,637	1,302	908	43,238	28,004	195,451	811,111	6,772	
宇摩・新居浜・西条・今治	363,593	105,348	70,509	498,193	7,320	20,518	98.0%	79.7%	90.4%	89.3%	13,637	5,577	3,934	184,438	116,820	860,178	1,742,335	27,043	
松山	270,117	55,450	39,951	642,841	1,667	9,613	65.5%	60.9%	75.6%	77.2%	49,940	5,694	3,995	126,965	80,693	571,219	1,246,705	15,807	
八幡浜・大洲	158,187	41,944	31,073	156,534	2,911	9,835	93.3%	97.0%	94.7%	89.5%	0	1,847	1,294	58,113	36,717	243,386	571,430	9,048	
松山・八幡浜・大洲	428,304	97,394	71,024	799,375	4,578	19,448	70.8%	66.1%	79.8%	79.9%	49,940	7,541	5,289	185,078	117,410	814,605	1,818,135	24,855	
宇和島	110,256	39,804	17,548	124,281	4,064	6,627	93.3%	94.9%	94.9%	85.1%	8,100	1,263	888	67,233	43,554	312,623	97,208	11,087	
県計	916,685	243,628	162,891	1,431,493	16,032	47,470	81.9%	72.5%	84.9%	83.5%	71,677	14,384	10,110	436,750	277,786	1,987,404	3,657,677	62,984	

H25.12 愛媛県地震被害想定調査報告書(愛媛県県民環境部防災危機管理課)



被災病院の評価ステップと行動確定

STEP0 平時の準備・調査・把握

- ① 非常時の備蓄・非常時代替
- ② 日常病院での使用量を把握
- ③ 職員参集



STEP1 場の安全評価（即時避難要否）

- ・ 火災・建物倒壊・津波・原子力・土砂・水害

STEP2 患者の生命維持機能評価（当面24時間の評価）

- ・ 酸素・電気

STEP3 衛生・生活機能評価と将来予測評価（長期的な機能維持ができるか否か）

- ① 衛生（継続的医療）・生活機能評価
- ② 資源の維持力評価：STEP0の事前調査情報を基に将来予測評価
- ③ 職員の参集状況予測や支援予測に基づいて、翌日以降の行動評価群を検討

Step4 具体的な支援要請



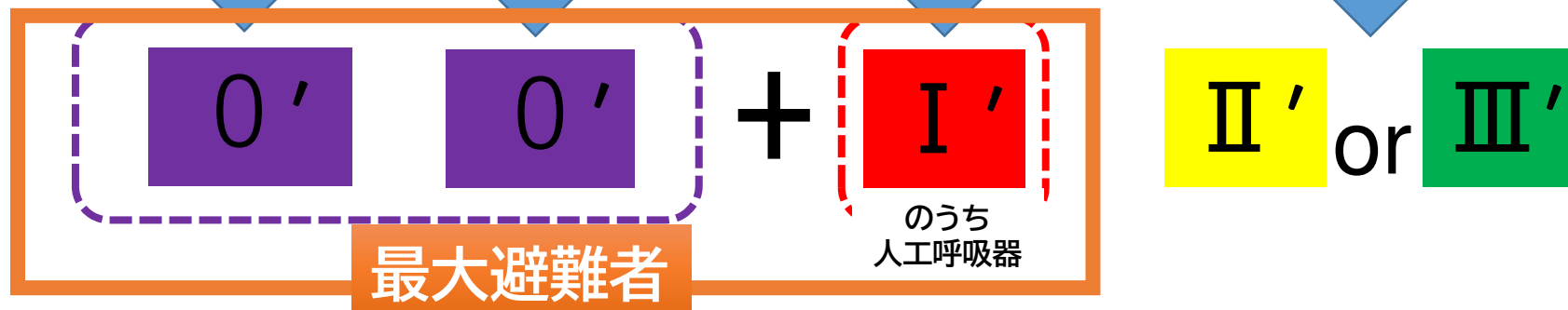
各医療機関の病院行動評価群想定

	建物倒壊	浸水	燃料	電源車	水
A	優先度高	優先度高	優先度高	優先度高	優先度高
B	入院棟がIs値0.6未満又は未診断	浸水あり	稼働時間24時間未満	—	使用可能時間24時間未満
C	建物いずれかがIs値0.6未満又は未診断		自家発有(稼働時間不明含む)	—	受水槽有(使用可能時間不明含む)

6弱以上

停電状況

断水等状況



機械的に判断せずに避難の緊急性を総合的に判断すること



本県の病院行動評価群想定

機能の評価	場（施設） 危険	機能障害		制限なく 機能維持
		機能回復不可	回復の可能性あり * or 一部機能障害	
病院行動評価群	診療継続不可		診療継続可	
	0	I	II	III
取るべき行動	緊急避難	避難	機能維持	通常運用/ 病床拡張

付帯事項
ICUなど特殊病床については
別途評価と判断を付記

医療圏（病院数）	0'（倒壊）	0'（浸水）	I'	II'	III'
宇摩（8）	1	1	5	1	0
今治（28）	11	4	0	10	3
新居浜・西条（21）	5	5	6	3	2
松山（50）	9	4	5	20	12
八幡浜（15）	3	3	4	4	1
宇和島（12）	2	3	1	1	5

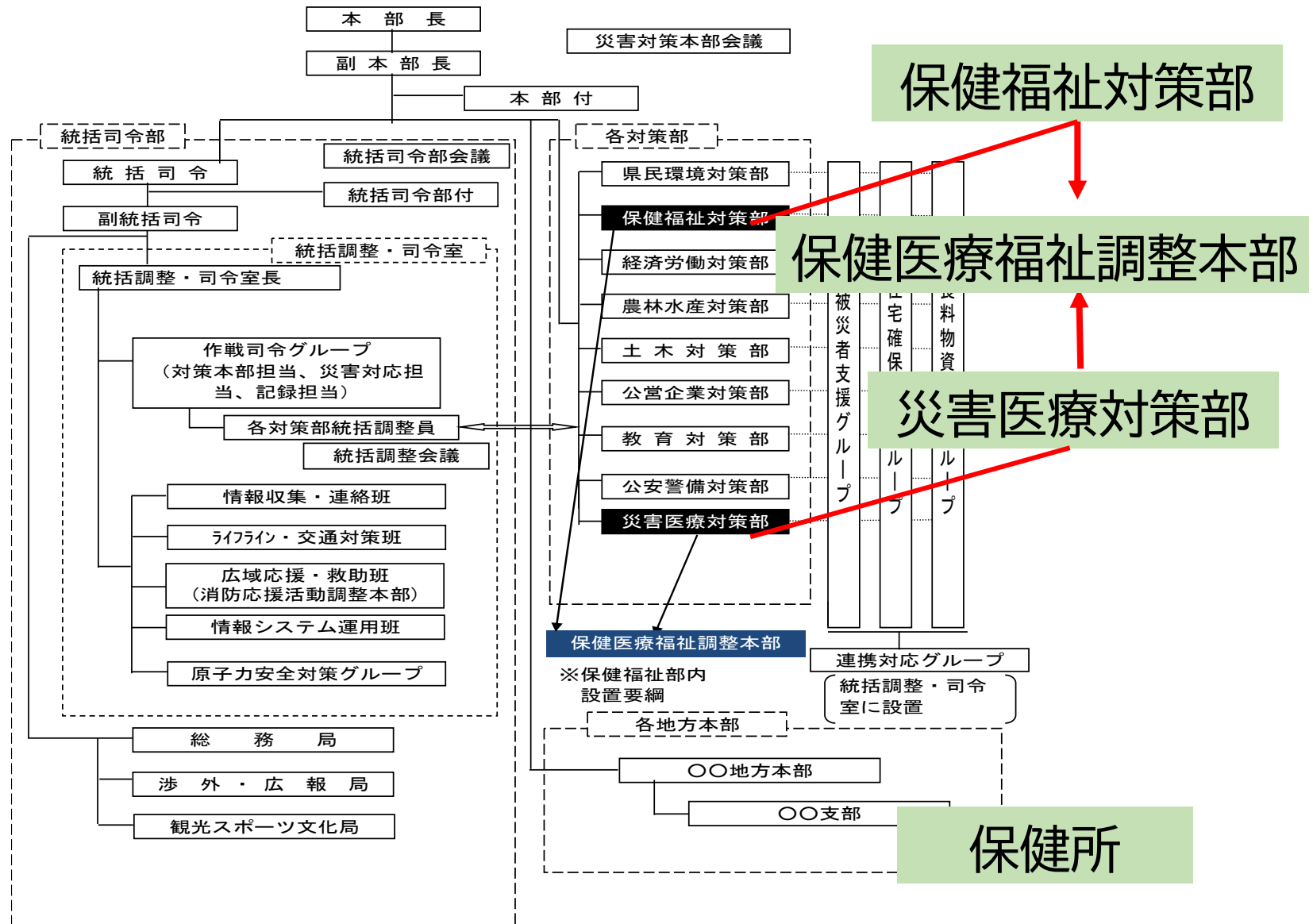


訓練の参加機関

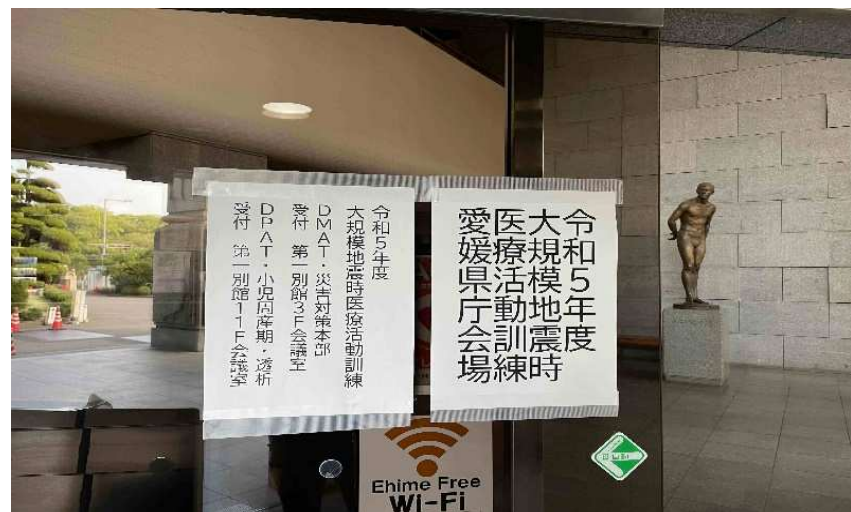
- **医療機関** : 愛媛県内DMAT指定病院（災害拠点病院）、西条市立周桑病院、松山記念病院（DPAT兼）、県立南宇和病院、DMAT、DPAT、災害時小児・周産期リエゾン、愛媛人工透析研究会
- **消防機関** : 新居浜市消防本部（仮想）、松山市消防局、宇和島地区広域事務組合消防本部（仮想）から活動拠点本部へリエゾン各1名
- **関係機関等** : 内閣府、DMAT事務局、DPAT事務局、松山空港事務所（保安許可等）、陸上自衛隊、松山海上保安部、四国電力、ISUT（災害時情報集約支援チーム）、松山空港ビル、愛媛航空（場所提供）、中日本航空、医薬品災害連携協定機関
- **行政機関** : 愛媛県（医療対策課、保健福祉課、健康増進課、薬務衛生課、県立病院課、防災危機管理課、消防防災安全課、防災航空事務所、四国中央・西条・今治保健所、中予・八幡浜・松山市保健所、宇和島保健所）

**本県の災害対策本部体制について
(災害医療対策部・保健福祉対策部)**

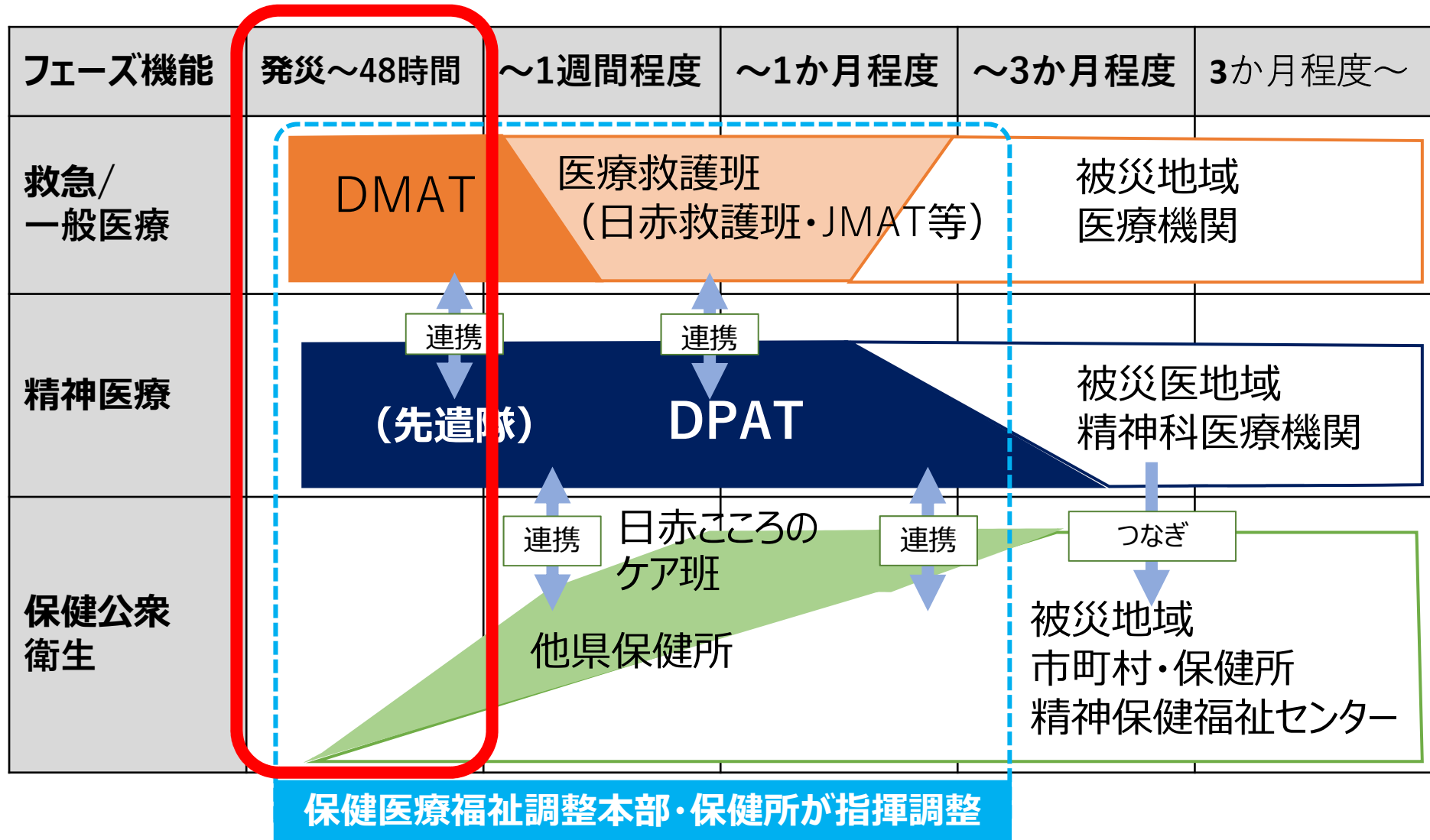
本県の災害対策本部組織図



DPAT訓練の内容



フェーズ毎の災害保健医療体制の連携体制



DHEAT 応援

DPAT訓練参加者

○訓練プレイヤー

- 愛媛県

- 愛媛県DPAT隊 5 隊

 - (愛媛大学医学部附属病院 2 隊、松山記念病院 2 隊
くろだ病院 1 隊)

- 災害拠点精神科病院 (松山記念病院)

- 県外DPAT隊 2 隊

 - (平安病院 1 隊 (沖縄県))

 - 山口県立こころの医療センター 1 隊 (山口県)

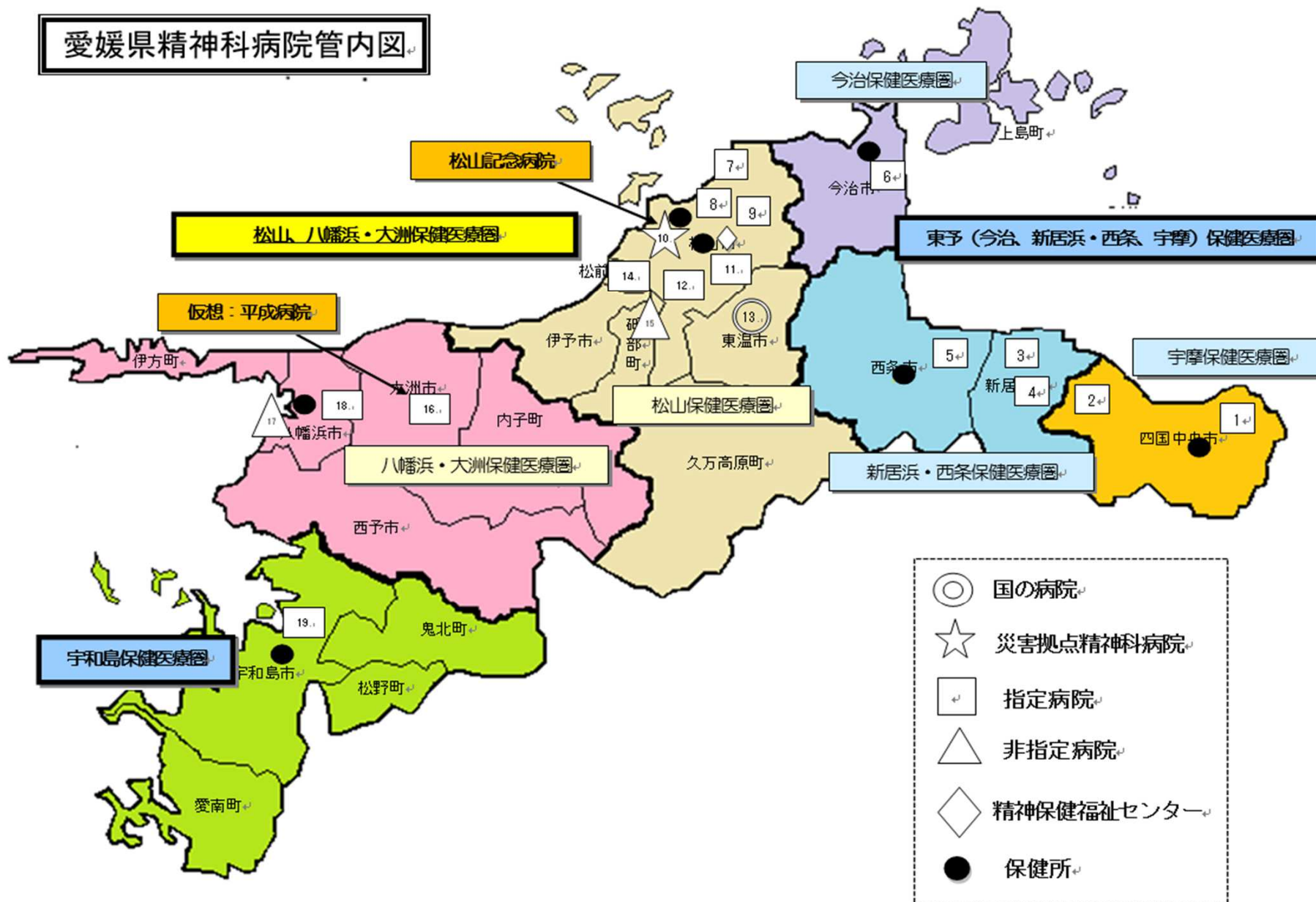
○訓練コントローラー

- DPATインストラクター 7 名

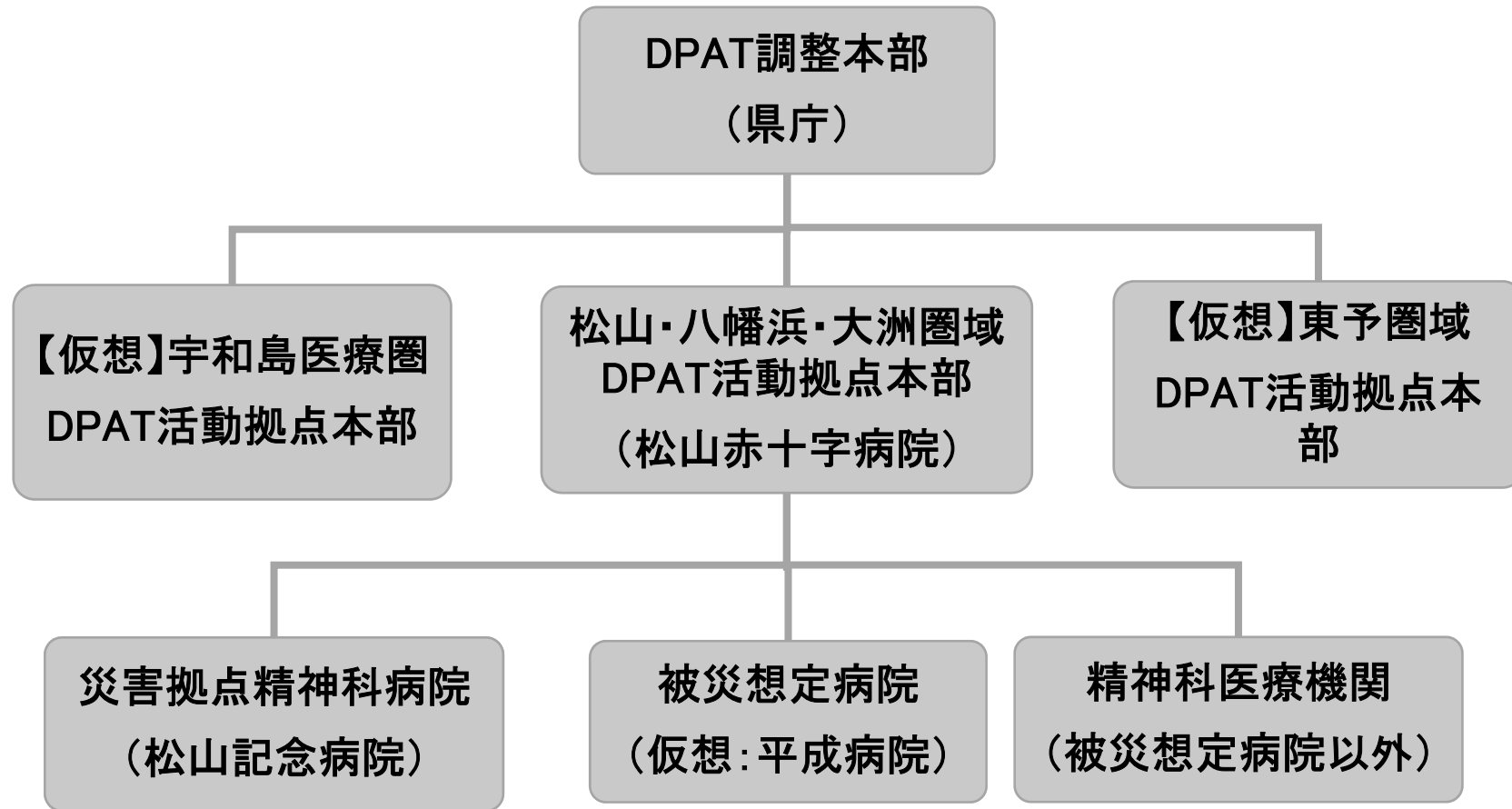


精神科病院管内図

愛媛県精神科病院管内図

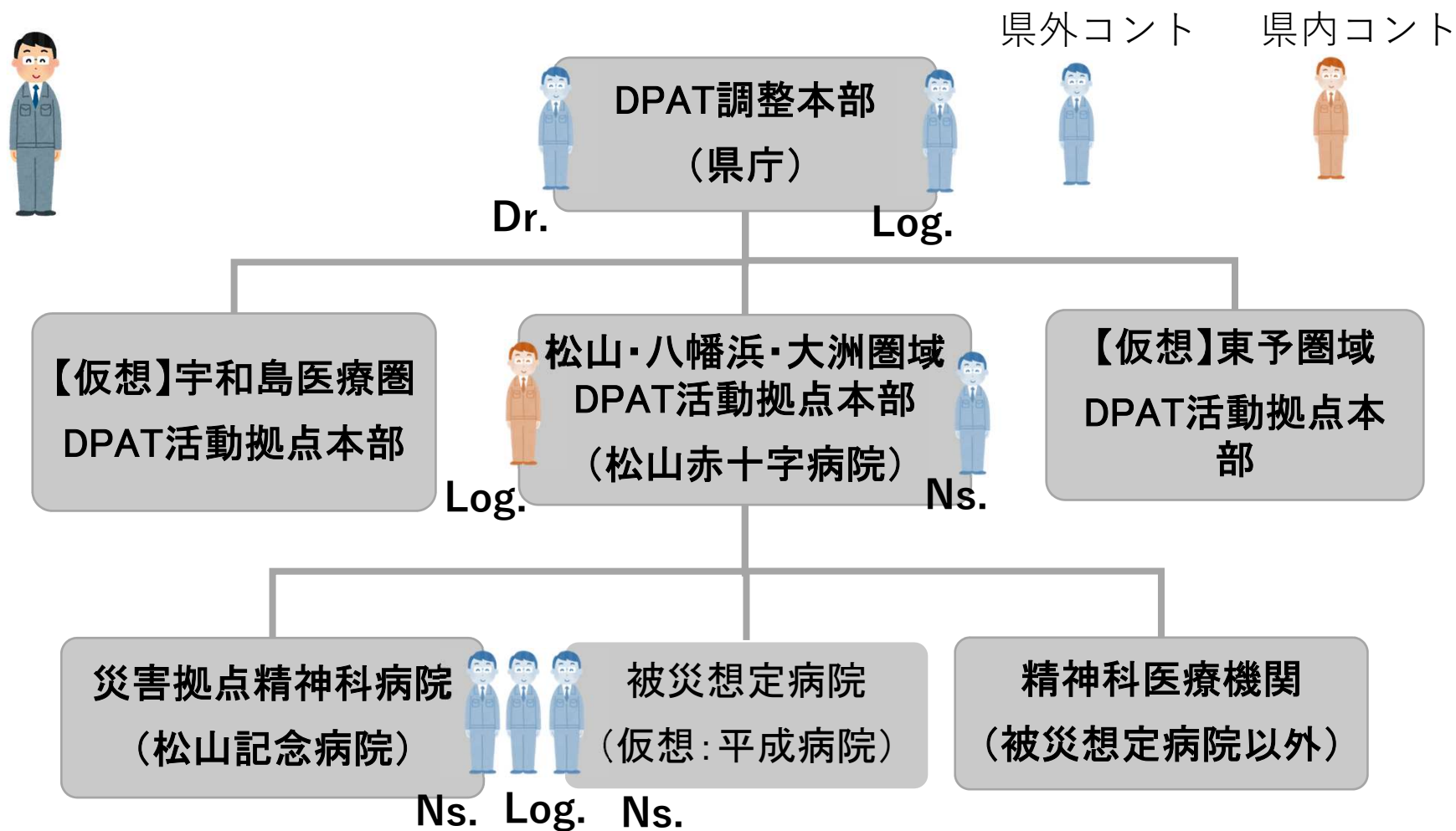


DPAT組織図

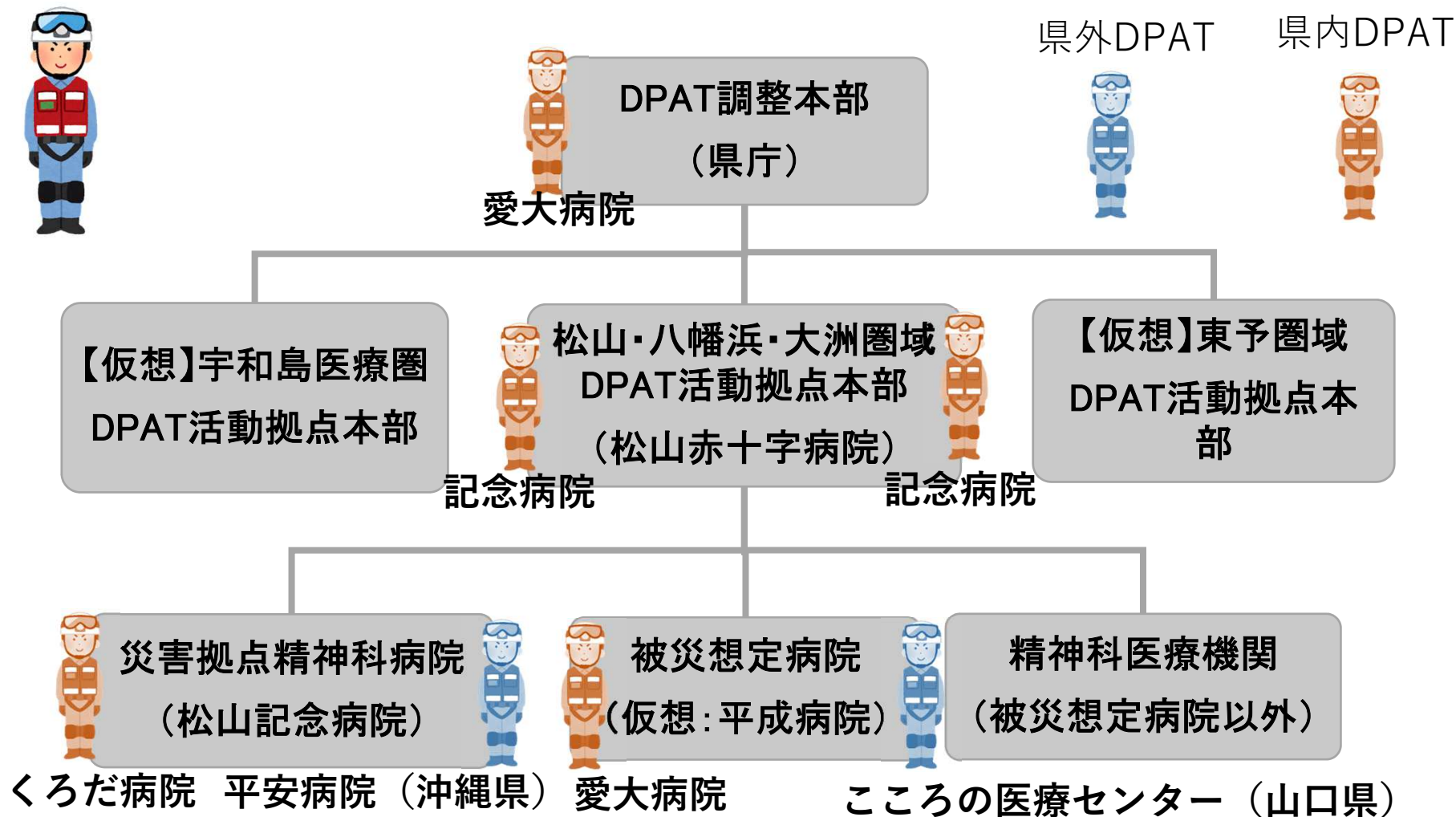


宇和島医療圏及び東予圏域については仮想とする。（設置場所は県庁）
訓練では発災翌日の病院支援を行うことから、活動拠点本部をDMAT活動拠点本部と横並びで設置する。

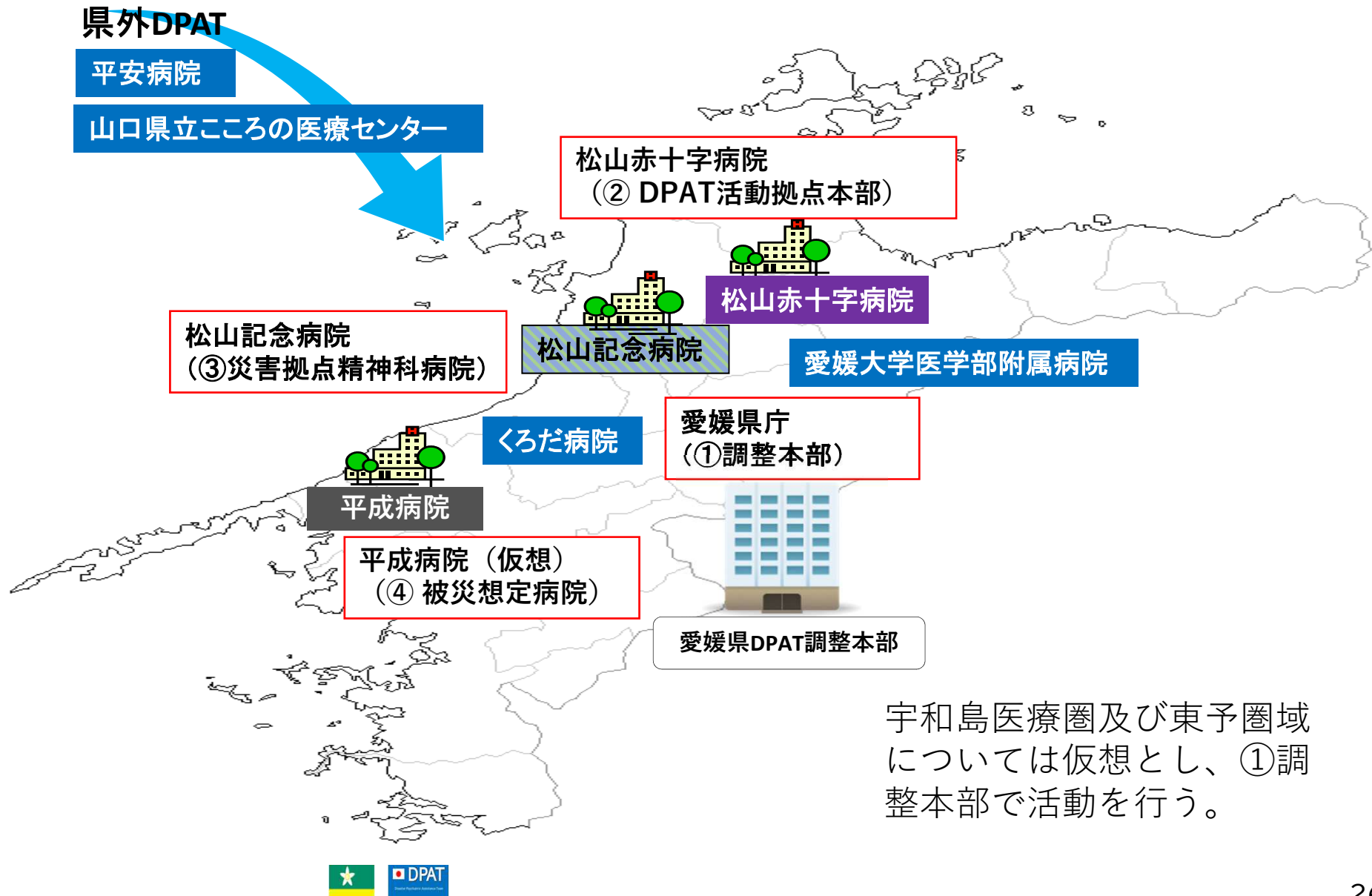
DPATコントローラー配置図



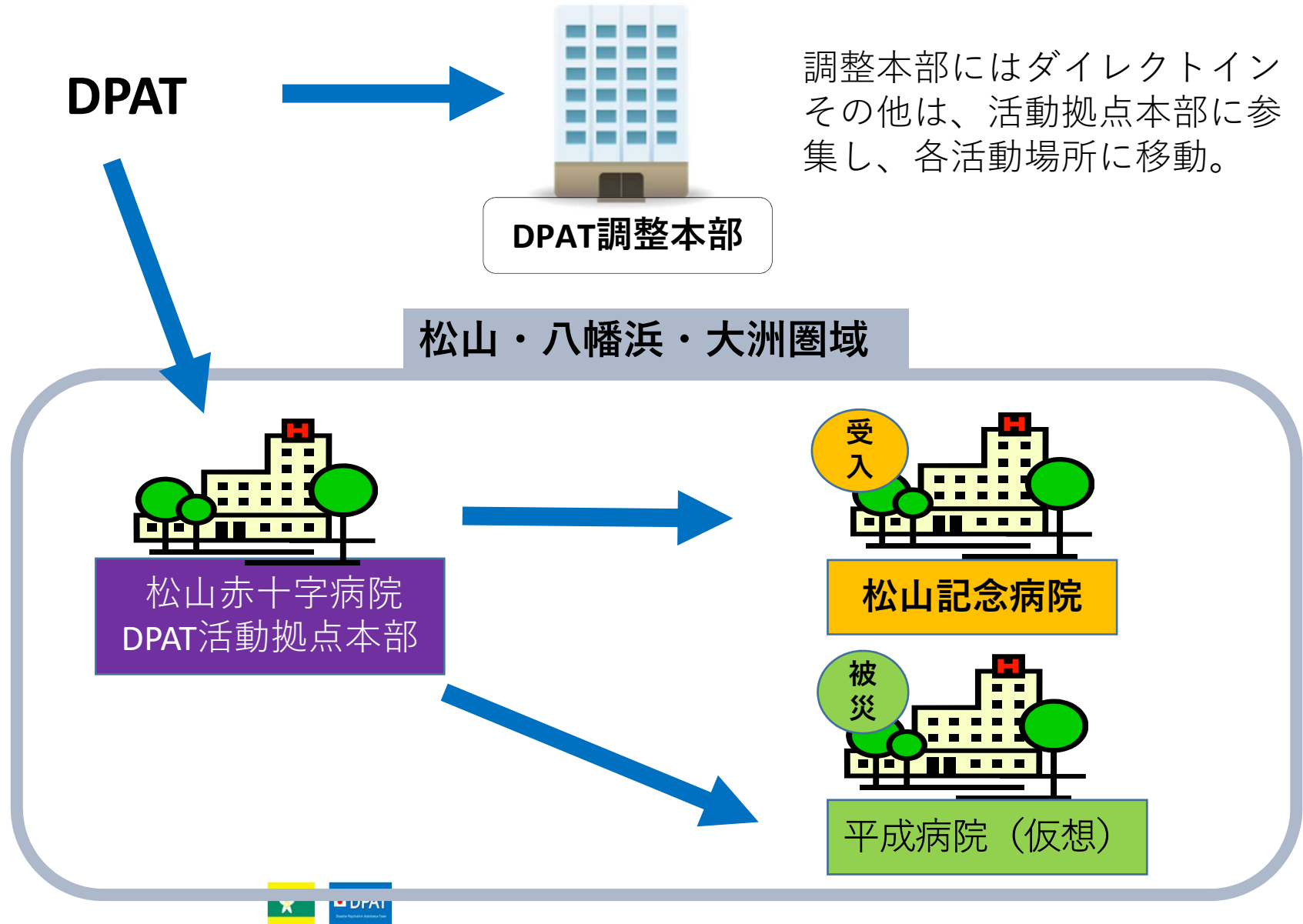
DPAT隊配置図



DPAT訓練の位置図



DPAT投入フロー



DPAT訓練のシナリオ

DPAT訓練の想定シナリオ

DPAT訓練の想定

○DPAT調整本部及び活動拠点本部での活動

→本部の立ち上げ等の実施。DPAT事務局やDMAT調整本部等といった関係部署と情報共有しながら訓練を実施。

○災害拠点精神科病院での患者一時集積

→災害拠点精神科病院（松山記念病院）においては、指定要件でもある「災害発生時に、被災地からの精神科医療の必要な患者の受け入れ拠点にもなること」とあることから、被災想定病院から患者を一時受け入れを行う訓練を実施。

○被災想定病院での患者トリアージ、搬送手段の確保、DMATとの連携等

→病院行動評価群想定に基づき、本訓練実施にあたり建物倒壊「0」と評価された平成病院を被災想定病院とし、訓練を実施。

DMATと連携しながら、入院患者48名のトリアージ及び搬送手段の確保を行った。

※訓練当日は、松山記念病院の1室を平成病院病棟と見立てて訓練を実施。

※患者48名については、患者カードを用いて机上でのトリアージ。

DPAT訓練詳細

DPAT訓練の項目

訓練の項目

- ① DPAT調整本部立ち上げ・運営
- ② DPAT活動拠点本部立ち上げ・運営
- ③ 災害拠点精神科病院訓練
- ④ 被災想定病院訓練（仮想）

① DPAT調整本部立ち上げ・運営

9月29日

11時 発災（南海トラフ地震が発生）

12時45分～17時 訓練実施

＜統括者＞森医幹

＜本部要員＞県職員

＜コントローラー＞2名

＜訓練内容＞

調整本部立ち上げ、情報収集、
県外DPAT派遣要請、
DPAT隊に参集場所を連絡 等



① DPAT調整本部立ち上げ・運営

9月30日

8時半～16時 訓練実施

＜統括者＞森医幹

＜プレイヤー＞県職員＋愛大DPAT隊

＜コントローラー＞2名

＜訓練内容＞

本部運営、情報収集、活動拠点本部の状況把握、
精神科医療機関の物資支援、患者搬送支援 等

○東予・宇和島圏域については、仮想で活動拠点本部を県庁に立ち上げ



② DPAT活動拠点本部立ち上げ・運営

〈場所〉松山赤十字病院

〈管轄〉松山・八幡浜・大洲圏域

〈プレイヤー〉県職員+松山記念DPAT隊

〈コントローラー〉2名

〈訓練〉本部運営、情報収集、DMAT隊との連携

管轄地域の精神保健医療に関する情報収集

被災想定病院・災害拠点精神科病院への支援



③ 災害拠点精神科病院訓練

＜場所＞松山記念病院 大会議室

＜プレイヤー＞松山記念病院職員

＋くろだDPAT隊＋平安病院

DPAT隊

＜コントローラー＞3名（④被災想定病院と兼任）

＜訓練＞避難患者の一時集積、DMAT隊との連携

（患者カードによる机上訓練）

※被災想定病院からの搬送訓練



④ 被災想定病院訓練(仮想)

<場所> 松山記念病院多目的室

<プレイヤー> 愛大DPAT隊

+ 山口県立こころの医療センターDPAT隊

<コントローラー> 3名 (③災害拠点精神科病院と兼任)

<訓練>

「平成病院の一部病棟が倒壊した」という想定による患者避難 (患者カードによる机上訓練)

※災害拠点精神科病院への搬送訓練

患者の整理 (入院患者搬送用紙の作成)

活動拠点本部に搬送 (搬送先) の依頼

DMAT隊との連携



DPAT訓練の振り返り

① DPAT調整本部立ち上げ・運営

【振り返り会での意見】

- 活動内容についてイメージが少しかった
- 実際の災害が起こった時のために、訓練を通じて練習が必要と感じた
- 情報が錯綜し、情報共有や整理が困難であった
- 現場で何が実際に起こっているのか、何が必要かについてリアルタイムに把握する必要性を感じた
- 活動拠点本部の状況が見えない状況もあり、連絡・連携の強化が必要
- 本部内の役割分担の見直しが必要
- EMISの情報収集に関して、今どの情報が求められているのか、収集する情報について状況判断する必要がある
- DMATとの連携の重要さを感じたが、今回は訓練部屋が異なったため、場所が近ければ更に連携体制がうまくいったのではないかと

② DPAT活動拠点本部立ち上げ・運営

【振り返り会での意見】

- Help-SCREAMにそって本部の立ち上げや役割分担が行えた。
- DMATの活動拠点が隣にあったこともあり適宜情報共有や相談ができた。身体科治療を伴う精神患者の搬送調整をDPATと連携するイメージを持つことができた。
- 本部長を中心に定期的にミーティングもでき課題の確認をメンバーで共有した。
- できなかったこととしては、被害状況の可視化（道路状況や圏域内の被災状況）、コンタクトリストの漏れ、EMISでの救護班登録や随時の活動状況の変更の漏れ等があった

③ 災害拠点精神科病院訓練

【振り返り会での意見】

- 外部や内部と連携・コミュニケーションが必要だと分かった
- 情報の齟齬があり、災害時における情報管理の重要性がわかった
- DMATとの連携については勉強になった
- 指揮命令系統を意識する必要があった
- DPATがどのように動き支援していくか、イメージがつかめた

<DMAT側>

- 指揮所運営等にテクニク的に修正が必要な部分もあるが、活動全体のタスクは概ねできていた。
- 精神科ということで、DPATと必要なすみわけはできつつ、協力すべきことは協力して活動ができた。

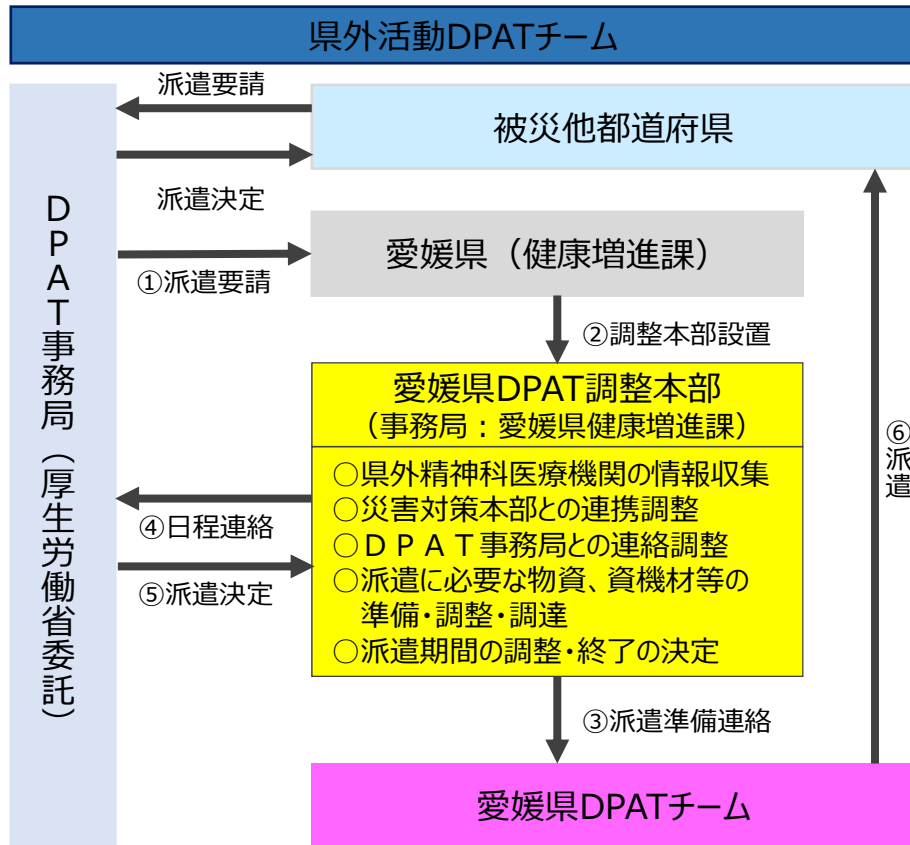
各精神科病院等におけるDPATチームの協力依頼について（案）

【方向性】

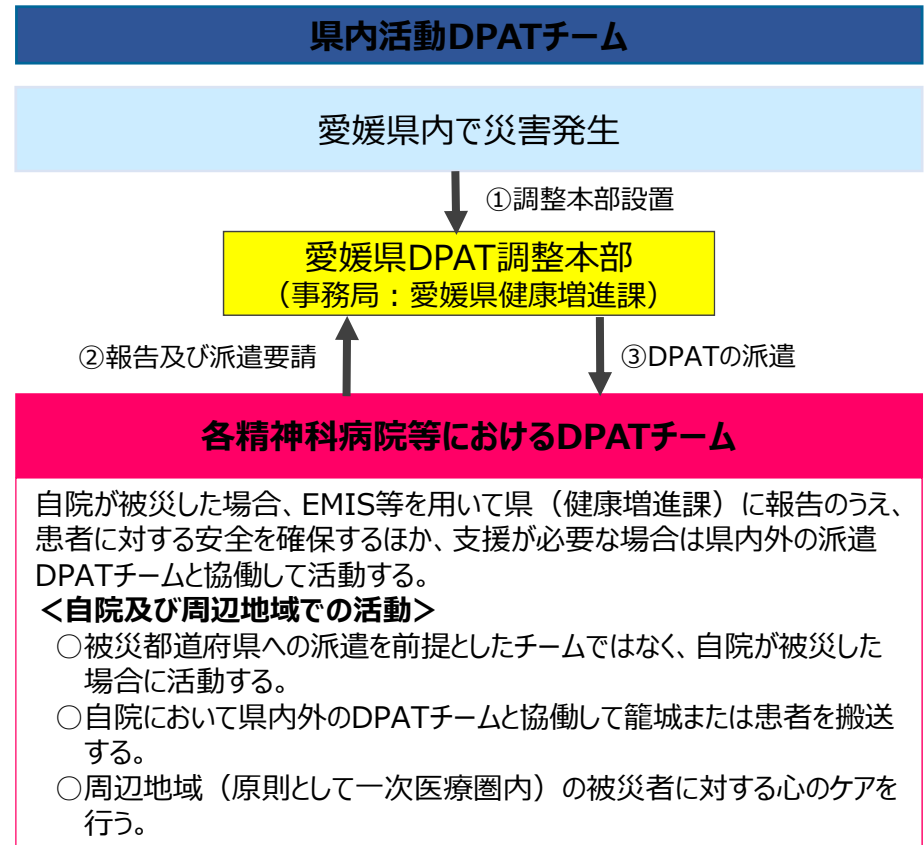
- 県外活動DPATチームの拡大
被災都道府県を支援するため、派遣可能なDPATチームの拡大「将来的な課題」

○**県内活動DPATチームの設置**

自院が被災した場合、患者に対する安全を確保するほか、支援が必要な場合は派遣DPATチームと協働して活動するチームの設置



○国の要領等に基づき設置するもので、被災都道府県への派遣を前提としたチームであり、各都道府県が設置するDPAT調整本部が総合調整を担う。



○愛媛県DPATチームは現在松山圏域にのみ設置されていることから、他圏域の設置を当面の目標とし、最終的には各精神科病院が被災時にDPATチームとして活動することを目指す。